

福田康夫日本国政府代表ステートメント

(「世界人道サミット」避難民ハイレベル・ラウンドテーブル)

御列席の皆様、

先の全体会合では、過酷な状況で苦しんでいる一人ひとりの方々に手を差し伸べること、そして、災厄をもたらす紛争を未然に防止することがいかに大切かをみなさまに訴えました。この場では、より具体的に、日本が難民・避難民を取り巻く状況を改善するために何をしていくのか、お話ししたいと思います。

まず、目下、日々必要となる人道支援を続けつつも、人道危機の根本原因とも言える貧困や格差といった問題に、それがたとえ容易ならざる課題でも、正面から取り組まねばなりません。

日本は、今後3年間で2万人の中東各国の人材育成に協力します。日本は、教育や職業訓練など、紛争の災厄に苦しむ人々が自らの将来を自ら切り開けるよう、全力でお手伝いをしていきます。また、ここトルコを含め、難民を受け入れている国々との連帯も重要です。受入れコミュニティのインフラ整備などの経済・社会開発支援を行っていきます。さらに、故郷を離れ、教育を中断されてしまったシリアの若者の未来のために、シリア人留学生の受入を拡大します。

そして、難民・避難民の方々の平穏な生活を少しでも取り戻すべく、日本人は、現地で懸命に汗を流します。既に日本のNGOが難民キャンプ内外で心のこもった支援に従事していますが、日本政府・JICAとしても、「シリア難民及びホストコミュニティのための日本イニシアティブ」の下、JICAの人道支援チームを中東地域の難民キャンプや受入れコミュニティに派遣します。

こうした数々の支援は、今年からの3年間で、60億ドルに上りますが、これは、一人ひとりの生活と将来に思いを致した、生きたお金として現場に染み通っていくことでしょう。

そして、私たちは、国際機関の皆さんとの協力を非常に重視しています。実は、「人道と開発の連携」も「人間の安全保障」も、かつて緒方貞子国連難民高等弁務官がその基になるコンセプトを打ち出し、日本政府がそれを発展させたものです。

日本からUNHCRへの拠出はこの10年で約2.5倍に増えました。先般、日本は世銀の中東・北アフリカ資金イニシアティブに対して、今後5年間で5千万ドルの拠出と最大約9億ドルの円借款の供与を表明したところであります。

終戦直後の苦しみの中、また、大震災を経験した私たち日本人は、差し伸べられる手の温もりが、折れそうな心を支えてくれることを経験しました。日本からの支援が、温もりとなって、困難に直面する人々の心の支えになることを願ってやみません。

最後に、本日17時から、日本は、UNHCR、UNDP及び関係国とともに「人道と開発の連携」をテーマとしたサイドイベントを開催します。どうぞ皆様おいでください。

御静聴ありがとうございました。